海外新報

●「オブソニン」ト其實地上ノ應用

(British med. Journal. Feb. 2. 1907.)

Dr. Herbert French 述

吉 田 坦 藏 譯

今予ハ茲ニ「オブソニン」及或ル病ノ接種療法ニ就キ述ベムトスルモ、是レ皆ナ予ノ創說ニ非ラズ、Koch, Behring, Wright, Bulloch, Eyre, Louisson 其他諸家ノ業績ニ負フ所大ナリ、就中「オブソニン」ニ關スル吾人ノ現今ノ智識ハ主トシテ A. E. Wright ノ賜ナリト謂ハザルベカラズ

「オブソニン」トハ何ゾヤ

血中ノ白血球ハ之ヲ生活セル儘體外ニ保ツコトヲ得ルガ故ニ、吾人ハ白血球ヲ以テスル試験ヲ試験管中ニ於テ行フコトヲ得ベシ、彼ノ大家メチニコフガ白血球ノ種々ナル細菌ヲ所謂『喰菌作用』ニヨリテ自己ノ體內ニ併吞スルコトヲ顯微鏡下ニ觀察セルハ人ノ能ク知レル所ノ如シ、而シテ此喰菌作用コソ實ニ「オブソニン」說ノ據テ來ル所ナレ

今予ハ暫ラク結核菌喰菌現象ニ就テノミ述ブベシ、若シ生活セル白血球ヲ試験管ニ取り之ニ結核菌培養ヲ加ヘテ體溫度ニ保チ、サテ之ヨリ顯微鏡標本ヲ作りチール、ニールゼンノ結核菌染色法ニヨリテ染色シ鏡檢スルトキハ、多クノ結核菌ガ其白血球内ニ在ルヲ、換言セバ、白血球ニ喰セラレタルヲ見ルベシ、斯クテ吾人ハ一百ノ白血球ガ喰シタル結核菌數ヲ計算スルコトヲ得ベク、從テ其百ノ白血球ガ一定時間内ニ喰シタル菌數ノ多少ニヨリテ該白血球ノ喰菌作用ノ強弱ヲ知ルニ足ルベシ、例ヘバ同溫度、同時間ニ於テ同一培養ヲ用キテ、白血球毎百ニ對スル菌數百ナルモノト、二百ナルモノトアラバ乙ハ甲ニ比シ二倍ノ喰菌力ヲ有スルモノト謂フベキガ如シ

次ニ來ルベキ問題ハ『斯クノ如ク喰菌力ニ強弱ヲ來ス原因ハ何レニアリヤ』是ナリ其原因ハ思フニ種々アリ、例ヘバ溫度、白血球ノ新陳、結核菌ノ毒力等ノ如シ、然レドモ吾人ハ今必ズシモ此等ノモノヲ悉ク考フルヲ要セジ

(第二) 今若シ予自ラ予ガ血液中ヨリ新鮮ナル白血球ノ一定量ヲ採リ、同時ニ或ル結核患者ヨリモ其新鮮ナル白血球ノ一定量ヲ採リ健康人タル第三者ヨリハ血清ヲ採リ、而シテ二箇ノ試験管ヲ取リテ此血清ト同一培養ヨリノ結核菌ト各同量ヅ、ヲ頒チ入レ、更ニ甲試験管ニハ予ガ白血球ヲ、乙試験管ニハ結核患者ノ白血球ヲ加ヘ、サテ之ヲ一定時間、同一溫度ニ保チタル後檢セバ、予ガ白血球モ結核患者ノ白血球モ等シク百ニ對シ同數ノ菌ヲ喰取セルヲ見シ、即チ同一血清ニ混ゼラレタル二人ノ異ナリタル白血球ハ該菌ニ對シ同一ノ喰菌力ヲ有スルモノタルコトヲ知ルベシ

(第二) 又健康ナル第三者ヨリ一定量ノ新鮮ナル白血球ヲ採リ、予自身ト結核患者トヨリ血清ヲ採リ、二箇ノ試験管ヲ取リテ之ニ件ノ健康者白血球ト同一培養ヨリノ結核菌ト各同量ヅ、ヲ頒チ入レ更ニ甲試験管ニハ予ノ血清ヲ、乙試験管ニハ結核患者ノ血清ヲ加ヘ、サテ之ヲ同一時間同一温度ニ保チタル後檢セリトセヨ、若シ其結核患者ガ重症ナルモノナラバ、假令ヒ白血球ハ同一健康者ヨリ得タルモノナルニ拘ラズ、予自身ノ血清ヲ混ジタル場合ニハ結核患者ノ血清ヲ混ジタル場合ニ比シ遙カニ多數ノ結核菌ヲ喰取シタルコトヲ發見セン
以上ノ二試験ニヨリテ人ノ白血球ノ喰菌力ナルモノハ殆ンド全ク白血球其物ノ力ニ關セズシテ、却テ其白血球ハ存スル血清ノ如何ニ關スルモノタルコトヲ知ルベシ、而シテ其白血球ヲシテ喰菌作用ヲ逞ウセシムル所ノ血清中ノ物質ハ人未ダ之ヲ分離シタルコトナク、從テ如何ニシテ喰菌作用ニ影響スルヤニ至テモ不明ナリト雖、恐ラクハ血清中ニ細菌ニ作用シテ其細菌ヲシテ白血球ニ喰取セラレ易カラシムル所ノ物質ヲ含有スルニ因ルナラムト推想セラル、而シテ此物質ヲ稱シテ「オプソニン」トハイフナリ、「オプソニン」ナル語ハ「喰ハルル爲メニ備ヘラル、」テフ意味ノ希臘語ヨリ來レリ

「オプソニン」指數

次ニ予ハ『オプソニン指數』ニ就テ説明セム、今予ガ結核菌ニ對スル予自身ノ「オプソニン」指數ヲ計測セムト欲スト假定セヨ、予ハ則チ自體ヨリ血清ヲ採リ、他ノ健康人ヨリモ血清ヲ採リ、又誰カノ新鮮ナル白血球ト結核菌培養トヲ獲テ、而シテ二箇ノ試験管ヲ取リ

第一ノ試験管ニハ白血球ト結核菌ト予自身ノ血清

第二ノ試験管ニハ前者ト同量ノ白血球ト結核菌ト健康人ノ血清

ヲ容レ、サテ此二管ヲ可成ハ血温ヲ有スル孵竈ニ同一時間置クベシ、必ズシモ其時間ノ長短ヲ問ハズシテ可ナリ、而ル後上記ノ方法ニヨリテ同一白血球數ガ喰取セル菌數ヲ計算スベシ、若シ予ガ（血清ヲ有スル）試験管ニ於テ、白血球百ニ對シ被喰菌百五十ニシテ、他ノ對照試験管ニ於テハ白血球百ニ對シ被喰菌三百ナリシトセバ、予ノ結核菌ニ對スル「オプソニン」指數ハ $\frac{150}{300}$ 或ハ0.5ナリト云フ、故ニ「オプソニン」指數トハ詳言セバ患者ノ血清中ニ混和セラレタル白血球ノ喰取セル菌數ノ、同一狀態ニ於テ健康人ノ血清中ニ混和セラレタル同數白血球ノ喰取セル菌數ニ於ケル比ニ外ナラザルナリ

「オプソニン」指數ノ計測ハ細菌研究室ニ於テスラ三四時間ヲ要ス、サレド實地醫家ハ彼ノウキダール反應ニ於ケルガ如ク、患者ノ血液ヲ無菌的ニ中央部膨大セル毛細管ニ採リテ其端ヲ熔閉シ箱ニ入レテ適當ノ研究室ニ送付シ検査ヲ請フコトヲ得ベシ

「オプソニン」シ種々試ス

各血清ハ多クノ異ナレル種々ノ「オプソニン」ヲ含有ス、而シテ各菌ニ對スル「オプソニン」ハ各一種ナリ、例之、或ル人ノ血清ノ「オプソニン」指數ハ結核菌ニ對シテモ、葡萄狀球菌ニ對シテモ、痲疾球菌、連鎖狀球菌等ニ對シテモ之ヲ計測スルコトヲ得レドモ、其血清ノ結核菌ニ對スル「オプソニン」指數高キノ故ヲ以テ其葡萄狀球菌ニ對スル指數モ亦高シトハイフベカラズ、此故ニ或ル血清ノ「オプソニン」指數ニ就テ言フトキハ必ズ一々何々ノ微生物ニ對シテ斯ク々々ナリト言ハザルベカラズ

「オブソニン」指數ノ診斷的價值 (一)

健康人ノ結核菌ニ對スル「オブソニン」指數ハ實驗上〇・八乃至一・二ナレドモ、結核患者ニ於ケル該指數ハ甚ダシク差等アリテ低キハ〇・三高キハ一・八若クハ其以上ニ達ス、此ノ故ニ今結核ニ疑ハシキ一患者アリテ其「オブソニン」指數ガ〇・七以下ナルカ又ハ一・三以上ナリトセバ益々結核疑診ニ利アリト謂フベシ、而シテ其〇・七以下ナルトキハ其患者ノ抵抗力ハ弱ク一・三以上ナルトキハ抵抗力強キヲ知ルニ足ル

「オブソニン」指數ニ對スル接種ノ效果並ニ接種療法ノ原理

凡生活體ハ其成長ノ經過中ニ於テ自家ニ有害ナル新陳代謝產物ヲ排泄スルモノナルコトハ皆人ノ知ル所、彼ノ釀母ハ其最モ單純ナル好例ナリ、即チ釀母ハ葡萄糖上ニ生活シ絶エズ之ヲ分解シ「アルコホル」ヲ生ジ、其「アルコホル」ハ釀母自身ノ害敵タルガ故ニ其「アルコホル」ノ「プロセント」量ガ或ル一定ノ度ニ達スルトキハ、釀母ハ最早生活ニ堪ヘズ從テ發酵作用止ムモノトス、培養基上ニ養ハル、微生物亦皆斯ノ如ク一トシテ自家ニ對スル抗體ヲ生ゼザルモノアルナシ、是レ此理ヲ應用シテ疾病ヲ治療セムトノ企圖ガコッホ以來盛ニ試ミラレタル所以ニシテ、コッホハ則チ結核菌ノ越幾斯ヲ注射シテ以テ肺結核乃至他ノ結核症ヲ治癒セシメムトシタリ憾ムラクハ結果良好ナラズ或ハ却テ死亡比例ヲ高メタルコトアリ一時此種療法ノ聲價ヲシテ地ニ落チシメタルモ、今ヤ此法ハ復活シ吾人ニ好果ヲ齎ラシツ、アルナリ

元來コッホノ用キタル「ツベルクリン」ハ注射量ハ過大ニ失シタリ、而シテ其作用ヲ緩解セシムル方法ナカリシナリ、然ルニ今ヤ吾人ハライトノ研究ニヨリテ各個人ノ「オブソニン」指數ヲ知り、從テ幾許量ノ「ツベ

ルクリーン」ヲ要スルヤ又其幾許量ガ反覆注射セラルベキヤヲ明カニシ得ルニ至レリ、サレド此病毒接種療法ハ必ズシモ絶對的奇蹟的ノ療法ニ非ズ、他ノ治療法モ決シテ不用ナリトナスベカラズ、要ハ從來良好ナリト認メラレタル處置ト併用スルニアルナリ。

「オブソニン」指數ノ診斷的價值 (二)

吾人ハ「ツベルクリーンR」ハ五千分ノ一「ミリグラム」ヲ健康人ニ注射スルトキ、其人ノ「オブソニン」指數ハ約二日間ハ僅カニ低下シ次ニ常態ヨリモ僅ニ高上シ、次ニ元ト有セシ度ニ復歸スルモノナルコトヲ知ル、又結核患者ニ同様ノ注射ヲ行フトキハ始メハ指數ノ著シキ低下ヲ來シ、一週間若クハ其以上元ト有セシ度以下ニ留マリ、其レヨリ漸次高上シテ二乃至三週間以内ニハ終ニ、以前ヨリモ高度ニ達スルニ至ル、其注射後始メニ低下スルヲ名ケテ陰性現象ト云フ、陰性現象ハ健康人ニアリテハ短時限ニ過ギザルモ結核患者ニアリテハ長シ、往時「ツベルクリーン」ノ診斷上ニ應用セラル、ヤ其量ハ甚ダ大ナリキ、家畜ニ對シテハ今モ尙ホ然リトス、即チ當時ハ局部ニ發赤疼痛ヲ發シ全身症狀トシテハ體溫昇騰シ症狀増惡スルニアラザレバ陽性ナリト認メラレザリシナリ、今ヤ則チ然ラズ、即チ五千分ノ一「ミリグラム」位ノ少量ヲ用ウルニ過ギザルガ故ニ以上ノ如キ高度ノ反應ナク、患者ハ毫モ不快ヲ感ゼズ依然其職ニ從事スルヲ得ベシ、吾人ハ唯ダ隔日ニ「オブソニン」指數ヲ檢シテ若シ其陰性現象ガ一週以上ニ亘ルトキハ其患者ノ大抵結核性ナルコトヲ知ルナリ、

今若シ、「ツベルクリーン」ノ大量ヲ用キンカ、陰性現象ハ益々著明ニシテ、其第一ノ陰性現象ノ經過中ニ更ニ第二回ノ注射ヲ試マバ「オブソニン」指數ノ低下ヲ増シ從テ次期ノ高上ヲ遲延セシム、是レ彼ノ古弗及ビ諸

家ノ往時惡結果ニ終リタル所以ナリ、此故ニ更ニ大量ノ「ツベルクリン」ガ短期間内ニ反覆注射セラル、トキハ其患者ノ「オブソニン」指數ハ大ニ低下シテ其低位ニ留マリ、從テ其患者ノ抵抗力ハ大ニ減殺セラレ、結核菌ヲシテ容易ニ新シキ侵路ニ進マシメ、患者ハ遂ニ全身結核ニ陷キリテ死スルニ至ラム、此故ニ今吾人ガ一患者ヲ治療セントスルニ當リテハ必ズ先ヅ其人ノ血清ノ結核菌ニ對スル「オブソニン」指數ヲ知ラムコトヲ要ス、若シ其指數ニシテ既ニ高カラバ「ツベルクリン」療法ハ何等ノ效果ヲモ收メ得ザルベシ、何トナレバ其患者ノ組織ハ既ニ能ク反應シテ最早「ツベルクリン」ノ作用スベキ餘地ナケレバナリ、之ニ反シテ若シ其指數低キカ若クハ高カラズバ、則チ五千分ノ一「ミリグラム」ノ「ツベルクリン」ヲ患者ノ腕又ハ他ノ部ノ皮下ニ注射スベキナリ、此際無菌的處置ヲ必要トスルヤ素ヨリ論ナシ、斯クテ一定時ヲ隔テ、例ヘバ第三日、第七日、第十四日、第十七日ニ「オブソニン」指數ヲ檢シ、若シ格別ノ變化ナキトキハ、其患者ガ結核性ナラザルカ若クハ更ニ注射量ノ增多ヲ要スルノ證ナリ、大抵ノ場合ニ於テハ結核ナラバ五千分ノ一「ミリグラム」ニテ充分ナルヲ常トシ陰性現象ハ二週若クハ其以上ニ亘リ第三週ニ於テ陽性現象著明トナルモノナリ、サレバ此際ニハ注射量ヲ増スノ必要ナク、唯ダ陽性現象ノ高キニ當リ更ニ五千分ノ一「ミリグラム」ノ注射ヲ要スルハミ、ソレヨリハ最早必ズシモ指數ヲ檢スルノ要ヲ見ズ、(素ヨリ之ヲ檢セバ安全ナルモ)、蓋シ三回目ノ注射ハ二回目ノ注射後ニ於テ、第二回ノ注射ガ第一回ノ注射後行ハレタリシ時限ト同一ノ時限ヲ隔テ、行ハルレバ足レルガ故ナリ、(是レ其個人ニアリテハ反應大抵同一程度ニ現ハル、ニ由ル)、斯クテ吾人ハ一々「オブソニン」指數ヲ檢スルハ煩ナク、數回ニテモ整然タル間歇ヲ以テ注射ヲ反覆スルヲ得ルナリ、

此療法ノ價值ハ多クノ局所結核症例ニ就テ立證セラレタリ、殊ニ狼瘡、皮膚潰瘍及膀胱結核ノ如キ是ナリ、然レドモ此等ノ場合ニ於テモ奇蹟的治癒ニアラズ、從テ狼瘡ノ如キハ「ツベルクリン」ト共ニ光線療法ヲモ必要トシ、膀胱結核ノ如キハ「ツベルクリン」ノ外ニ「ウロトロピン」ヲモ要スルナリ、斯ノ如ク假令ヒ他ノ治療法ト併用シタル場合ニセヨ、「ツベルクリン」ニヨリテ結核症ヲ救治シ得ルトセバ吾人ハ之ヲ試ミテ可ナリト信ズ

葡萄狀球菌接種苗

吾人ハ葡萄狀球菌、痲疾球菌等ノ培養ヨリ接種苗ヲ製造スルコトヲ得ベク、上記ノ「ツベルクリン」ノ場合ト同様ニ之ヲ患者ニ注射スルコトヲ得ベシ、「オプソニン」指數ヲ檢シ一定ノ間歇時ヲ置キテ一定量ヅ、ヲ注射スルハ勿論ナリ、予ハ痲疾球菌、連鎖狀球菌若クハ肺炎球菌感染ニ對シ此種療法ヲ施シタルノ經驗ナシト雖、葡萄狀球菌感染ニ關シテハ大ニ之ガ經驗ヲ有セリ

尋常瘰癧

瘰癧ナリトテ中々ニ侮ルベカラザル場合アルコトハ人ノ知ル所ナリ、故ニ之ト戰フベキ新法ノ更ニ現ハル、アラバ吾人ハ之ヲ歡迎シテ可ナリ、接種療法ガヨシ萬能ニアラズトスルモ、他ノ方法ニ加勢シテ之ヲ有效タラシムルノミニテモ大ナル利益アリト謂フベシ、予ハ多年間不斷腫物ヲ生ジテ醜惡タリシ顏貌ノ此療法ニヨリテ非常ニ秀麗トナレルヲ見タリ、而カモ此等ノ場合ハ何レモ病膏盲ニ入レルガ如キ場合ナリシ也サレド予ハ病ノ早期ニ此療法ヲ行フヲ得ベシト信ゼリ

病原ハ均シク葡萄狀球菌ナリトイフト雖、實際ノ癩衝ハ種々異ナリ、蓋シ黃金色、白色、橙黃色球菌ノ別アレ
バナルベシ、故ニ一種ノ葡萄狀球菌培養ヨリ造レル接種苗ニヨリ得タル結果ハ他種ノモノヨリ得タル結果ト異
ナラズンバアラズ、サレバ吾人ガ接種苗ヲ造ルニ當リテハ須ラク當該患者ヨリ獲タル菌ヨリスベキナリ、實地
家ハ膿疱ノ頂點ヲ破リテ少量ノ膿ヲ採リコレヲ培養基面ニ塗布シ法ノ如ク取扱ヒ箱ニ入レテ研究室ニ送付スベ
シ、研究室ニテハ之ヲ培養シテ該菌ノ「エムルジオン」ヲ造リ、菌數ヲ計算シ、殺菌シ、濾過シテ二億五千萬
ノ葡萄狀球菌ヨリノ產生物丈ケヲ測リ取り、之ヲ硝子球ニ容レ更ニ一回殺菌シ以テ用ニ供ス、是レ即チ一回量
ニシテ皮下ニ注射セラル患者ハ之ニヨリテ違和ヲ感ズルコトナク、毫モ其日々ノ仕業ヲ妨ゲラル、コトナシ、
始メノ一二日間ハ何等ノ變化ナキモ其以後ニ於テ患者ハ快方ヲ自覺シ腫物ハ縮小スレドモ十七日以内ニ復ビ逆
歸スルヲ覺ユルニ至ル、此時コソハ第二回注射ヲ要スルノ時ナレ、大抵同一間歇時ヲ隔テ、六回許注射セバ殆
ンド何等ノ苦痛ダモ無キニ至ルモノナレドモ、予ノ經驗ニヨレバ、約三週ノ間歇ヲ隔テ、長時注射ヲ續行スル
ノ要アルガ如シ、彼ノ淑女等ノ場合ノ如キ座瘡ノ自然ニ消散スルマデ容貌ヲ保ツノ必要アルトキ殊ニ然リト
ス

座瘡ノ接種療法ニ於テハ「オブソニン」指數ノ計測ハ必ズシモ必要ナラズ

今予ハ葡萄狀球菌接種療法ヲ述ブルニ當リ其「オブソニン」指數ニ就テ記セザリキ、是レ予ガ殆ンド其必要
ヲ認メザルニヨル、予ガ多數ノ實驗ニヨレバ座瘡ニ於ケル該指數ハ殆ンド常ニ不變ニシテ敢テ各個人ニヨリテ
異ナル所アラズ、即チ陰性現象ハ注射後發スルコト「ツベルクリン」ノ場合ニ於ケルガ如ク又陽性現象ハ陰

性現象ニ次イデ起リ、第十七日頃ニ其極點ニ達ス、此トキ次回ノ注射ヲ施セバ可ナリ、故ニ實地上ニハ瘡瘡ノ該指數ハ殆ンド不用ナリ、是レ瘡瘡が大ニ結核ト異ナル所以ナリ、結核ニ於テハ次回ノ注射ヲナスベキ最良時期ハ各個人ニヨリ大ニ異ナリ、從テ次回注射ヲナスニ先チ必ズ其「オプソニーン」指數ヲ決定セザルベカラザルコト前ニ述ベタルガ如シ

其他ノ接種苗

此種ノ療法ハ麻疾球菌、及他ノ局所的菌感染ノ場合ニモ之ヲ應用スルコトヲ得ベケム、予ハ幾分カ之ガ經驗ヲ有スト雖未ダ之ヲ公ニスルノ域ニ達セズ

實 例

今左ニ「ツベルクリーン」及「スタフィロコクシオン」注射ニヨリ好果ヲ結ビタル數例ヲ附記セム

(一) 結核性「カーリエス」及指炎

一少女「ツベルクリーン」療法ヲ受ケム爲メ、ドクトルレーノルツ氏ノ紹介ニヨリ我ガガイ病院ヘ送ラレ來レリ、此少女ハ右拇指ノ結核性指炎ダクチリチス及跟骨ノ結核性骨瘍カーリエスヲ有シ之ニ向テ種々ノ局所的及營養的療法行ハレタルコト數箇月ニ及ビシモ更ニ效ナキノミナラズ却テ益々増劇セリ、而シテ其結核ニ對スル「オプソニーン」指數ハ低カリシナリ、然ルニ五千分ノ一「ミリグラム」ノ「ツベルクリーン」Rヲ注射シ其指數ヲ檢測シタル結果、其次回注射マデノ固有ノ間歇ガ此場合ニ於テハ三週ト四週トノ間ニアルコト明カトナリ、第二回注射以前局所的何等ノ變化ヲモ見ザリシガ、第二回注射以後ニハ速ニ症狀輕減シ第三回注射後ニハ足部ノ腫脹全然消退

シ指炎モ大ニ輕快セリ、第四回後ニハ瘻孔治閉シ僅カニ局所ノ腫脹ヲ殘スノミトナリ、以前極メテ頑固ナリシ痼疾モ今ヤ四箇月ヲ出デズシテ實際輕快ノ幸運ニ達セリ

(二) 顔面及背部ノ瘡瘡

又ガイ病院ニ於テハ、數年間何レモ瘡瘡ニヨリイタク顔面ヲ醜害セラレタル二人ノ學生ニ對シ予ガ上記セル法ニヨリ「スタフイロコクシオン」注射ヲ行ヒシニ、其一例ハ「オプソニオン」指數ハ第一回注射後ニ於テ〇・八乃至一・八ニ達シタリシガ、第三回注射ノ後該患者ノ曰ク、『我ガ顔面及背面ハ清潔トナリ且輕快シ、浸潤ヲ蒙ムリテ硬固ナリシ腋窩腺モ今ヤ縮小セリ』ト、他ノ一例ハ更ニ好果ヲ收メ得タリ

(三) 葡萄狀球菌ニ因スル多發性膿瘍

我ガ病院ニ於テ皮下ノ多發性膿瘍ニ艱メル小兒アリ、爲メニ殆ド死ニ垂ントセリ、實ニ其膿瘍ノ數ハ正ニ七十五ト註セラレ、一ヲ開ケバ他ハ閉塞シ、該患者ハ殆ド絶望ニ近カリシナリ、然ルニ其膿瘍ヲ檢シテ葡萄狀球菌ヲ得タルヲ以テ、乃チ一定ノ間歇ヲ隔テ其菌ヨリ製造セル接種苗ヲ注射セシニ新「アプセス」ノ發生ハ止ミ速カニ全癒セリ

此ノ如キ例尙ホ他ニ多シト雖、接種療法ノ效能ヲ吹聽スルニハ之ニテ足レリト信ズルヲ以テ故ラニ述ベザルベシ

然ラバ則チ「ツペルクリーン」ハ結核ノ何レノ場合ニモ注射サルベキモノナルヤトイフニ、予ハ考ニテハ結核ハ一定ノ場合ニ於テ之ヲ他ハ氣候的衛生的療法ト併セ用ウルハ價值アリト思ハル、殊ニ效果アルハ局所的結核

病ニシテ彼ノ皮膚及膀胱ノ結核ハ之ニヨリテ大ニ輕快シ若クハ全治スルコトスラアリ、茲ニ於テ我ガガイ病院ノ一外科醫ハ『從來外科醫ニ委ネラレタリシ多クノ結核症ハ近キ將來ニ於テ内科醫ノ「ツベルクリン」注射ニヨリ手術ヲ要セズシテ治療セラル、ニ至ラム』ト言ヘリ然レドモ今果シテ其然ルヤ否ヤヲ斷言セムコトハ尙早ナリト謂ハザルベカラズ。元來「ツベルクリン」及「スタフィロコクシン」ハ「オプソニン」指數ヲ高上セシメ得ベシト雖是レ唯一時而已、一旦注射ノ中止セラル、アラバ其指數ハ再タビ低下シ患者ハ復タ菌ノ侵襲ヲ蒙リ易キニ至リ得ベシ、サレド其侵サレ易キ度ハ決シテ以前ヨリモ強カラズ、且一度此接種療法ニヨリ治癒セル病竈ハ假令ヒ再熾乃至再發スルコトアルモ、更ニ復タ同ジ療法ニヨリテ治癒セシメ得ベシ、兎ニ角餘リ早ク注射ヲ中止スルコト、竝ニ唯タ此注射ノミニヨリ他ノ衛生的、藥物的、手術的ノアラユル療法ヲ等閑ニ附スルガ如キハ決シテ當ヲ得タルモノニアラズ、從來該療法ノ試ミラレタル例ハ大抵皆重症ニシテ結核性潰瘍、膀胱結核、狼瘡、瘰癧等ノ如キ何レモ外科的及他ノ療法ノ奏效セザリシ場合ノミナルニ拘ラズライト氏ガ『コハ唯タ全數ノ幾「プロセント」ノミガ成效スト云フ如キ問題ニアラズシテ、現今マデノ處ニテハ皆ナ一樣ニ成效ストノ問題タリ』ト言ヘルヲ以テ之ヲ觀ルモ、此新タナル抗菌療法ハ早期ニ應用セラルベキモノニシテ單ニ最後ノ窮策トシテノミ試ミラルベキモノニ非ザルヲ予ハ信ゼントス

(完)